

・遊びや運動が他の領域より優れている。この力に依拠しながら、手指の機能や道具の操作をはじめ、言語の力を引き上げていくような学習の組み立て、展開を心がけていく必要がある。

(5) 意欲、態度 (H. 1. 5)

〔表1〕意欲・態度の具体例

〔目的〕 我々がめざすからだづくりの中核には、意欲、態度がある。右の表1は、その実態を記述方式で調査したものの一部である。

〔結果〕 ・年度始めという事もあって、調査結果からも、学部の雰囲気からも「何をしたいかろう

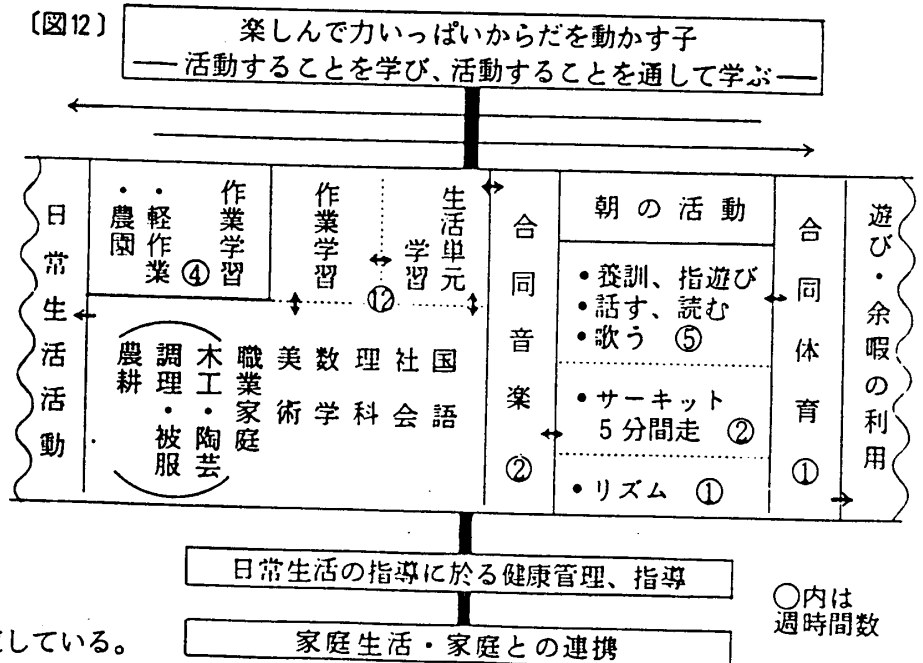
〔興味・関心〕 ・援助されて興味を持つ ・関心はあるが表現しない ・興味を持つが持続しない ・得意な事なら興味を示す ・特定の事に興味を示す	〔積極性〕 ・一つ一つ指示を待つ ・自分からは中々取り組みない。自信がない ・ごく限られた身近な事だけ進んで取り組む	〔集団参加・協力〕 ・やっと友達と一緒にいる ・すぐいなくなる ・わざと協力をさける ・先生の指示で協力する ・組の友達となら協力する
〔目的意識・やる気〕 ・何をしたいかわからない ・目的を問うが答えられない、話題にならない ・取り組む内に少しずつ目的意識がわいてくる	〔集中・持続〕 ・すぐ「もういい」と言う ・かなりのはげまし、援助で持続させる。(20分) ・好きな事なら、集中・持続する。(40分)	〔安定・自制〕 ・常同行動が多く見られる ・自己主張、勝手な行動がある。すぐすねる ・自信のある事なら安定して取り組む

うろしている」、「先生にさせられるのをじっと待つ」「自分の思いや考えを中々言えない」等、意欲、態度面での盛り上がりは少なく、この面への取り組みの必要性を感じる。

以上、(1)~(5)の調査を参考に、全員に個人目標を設定し、全体と個に目を向けながら取り組んだ。

〔6〕 生活の組み立て

右の図12は、「楽しんで力いっぱいからだを動かす子」をめざした各指導形態の位置づけ及びその相互のかかわり、週時間数を示したものである。生活リズムの確立という点から考え、朝の活動(体育を含む)は、1・2校時の帯時間を設定している。



各教科、領域、指導形態間の合科・統合の比率は単元によって異なるが、本年度はからだづくりの場を生活単元学習に広げたため、学校生活に大きな軸ができ、いろいろな活動がその軸に統合されたり、軸から発展して展開されたため、合科・統合の比率は平均75~85%の高率を示している。

以下、これ等の具体的実践について、遊び的労働を重視した生活単元学習を中心に述べてみたい。